こだま通信
Kodama Communication H30.2No.97

林野庁　近畿中国森林管理局
箕面森林ふれあい推進センター

ESDの視点から保・幼・小活動団体等が連携！
～「森林環境教育（森林ESD）活動報告・意見交換会」を開催～

【前号（96号）から続く】

3回目の開催となる今回は、幼児期の事例を含めて募集を行い、ESD（Education for Sustainable　Development：持続可能な開発のための教育）の視点で見直した実践の成果や活動団体の役割、また保幼小連携などを考え、成果の共有、相互交流、連携や活動の活性化を通じた森林環境教育（森林ESD）の普及を目的に開催したものです。

参加者交流（意見交換）

3回の休憩時間の前に参加者交流を行い、参加者からは「色々な立場で参加されている方々に話を聞くことができた」「同じような状況や悩みを持った地域や団体と横の繋がりができた」「活動されている先輩方との出会いはありがたかった」など参加者同士の繋がりを広める機会となりました。

パネルディスカッション

元地球緑化センターの金井久美子さんの進行で、講演者（３名）と発表者（８名）によるパネルディスカッションを行い、発表者からは森での活動で感じることや連携による変化・保幼小の接続など、それぞれの活動の中で感じていることが語られました。

講演者からは、「森林・自然が持っている教育力を改めて感じた。」「子ども達が正しく育っていく環境が森林にはあるが、そうではない違う環境でどう育てていくかを実践できるかが問われる。だからESDがある。」「発表事例から、質の高い体験が行われており、活動がESDとして成り立っているかを考えてもらえた。幼児期でしかできないことがあり、森林体験の意義ということを考えてもらいたい。」などの意見が出されました。

主催者・共催団体あいさつ

森の力、子どもの力を信じることの大切さを学んだ。関係者がどうやって連携していくかが大事で、信頼関係が生まれることで良いものができていく。国土緑推としても支援活動に取組んで行く。

共催団体:公益社団法人国土緑化推進機構
冨永茂政策企画部長

色々なところに成功事例がある。出会いや学び合うことが大事であり、こうした場を活かしてもらいたい。エコネット近畿でも交流の場を企画している。

共催団体:NPO法人近畿環境市民活動総合支援センター
新田章伸副理事長

ESDは、地球市民の一員として考えることのできる能力を育てるということ。地球全体の未来を考える思考の一つに、森林体験が活かされていけばと考えている。この会では、色々な立場の方々が意見交換できたことは良かった。この後の時間で更に交流を深めてもらい、参加した意義を高めてもらいたい。

主催:近畿中国森林管理局
高井秀章森林整備部長

小学校教科書、森林・林業に関する副読本等の展示

サイドイベントとして、京都教育大学付属図書館の協力のもと、森林、林業、環境に関する小学校の教科書及び副読本の展示を行いました。活動報告、意見交換会の参加者の多くが訪れ、戦前から現在に至る教科書の林業や森林に関する記述に触れ、小学校の授業について想いを巡らせました。

参加者のアンケートから

・参加しての感想・事例発表の感想とも、「大変参考になった」「参考になった」を合わせて、90 % と高い評価を得ました。
・「ESDを取り入れたい」と50%の回答があり、「連携・協働に取り組みたい」も53%と、「それぞれ既に実践している」が20～30%いる中で、「これからも取り組みたい」とする意見が多く出されました。
・感想からも、「大変勉強になった」「地域でも活動を進めたい」「色々な事例から自分の中で具体的なイメージが膨らんだ」など学びや意欲に繋がる感想が寄せられました。

当センター、共催団体、後援団体等のネットワークでの参加募集により、多様な組織から多数の参加を得ることができました。関係の皆様のご協力に心から感謝申し上げます。今後、当センターとしましては、３年間の取組について事例集として取りまとめを行うとともに、成果として「森林環境教育の普及」に幅広く活用したいと考えていますので、今後とも皆様のご支援をいただければ幸いです。

林野庁 近畿中国森林管理局　箕面森林ふれあい推進センター
TEL:050-3160-6745/FAX:06-6881-2055
〒530-0042　大阪市北区天満橋一丁目８－７５　近畿中国森林管理局３Ｆ
URL:http://www.rinya.maff.go.jp/kinki/minoo_fc/
E-mail　kc_fureai@maff.go.jp